

# 連載 豊平川に眠る人魚

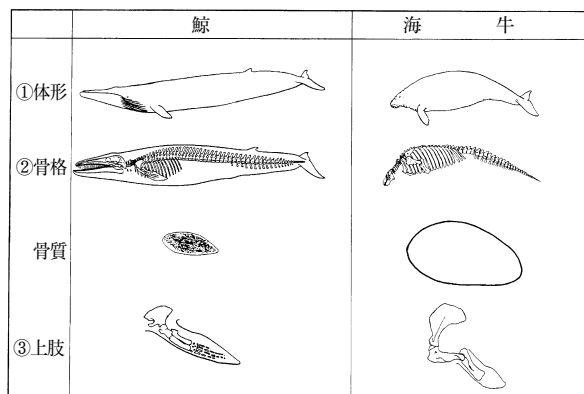
## ⑥ おどろきは発見だけではなかった！

前回のこのコーナーで「その骨は遠目に見ても海牛だとわかりました」と書いたところ、何人もの方から「なぜそんなことがわかるのか」という質問が寄せられました。その言葉のうらには「化石の鑑定はどことなくいかがわしい？」といったニュアンスがにじみ出ているように思うのですが、私が断言できるのにはちゃんとした理由があります。

実は、数ある哺乳類の中で肋骨だけを見てこれは〇〇だ！といえる動物は海牛だけかもしれません。今も生息するジュゴンやマナティーを含め、これまで地球上で確認されている40種あまりの海牛類のすべてに共通して見ることのできる特徴を海牛類の“標徴”<sup>ひょうてい</sup>といいます。海牛の標徴のひとつが「肋骨は全体に緻密質が発達し、楕円から円形の断面をもつ」というものなのです。一般的にはよく“バナナ状”の肋骨といいますが、太いバナナのような肋骨がごろごろ転がっているのが観察できれば「これは海牛だ！」といってもほぼ間違いありません。

さらに、札幌の海牛は、非常に大きな肋骨をもっていました。それは明らかにヒドロダマリス属というグループに見られる、寒冷な気候に適応して大型化した海牛であることを示し

ています。そこで次に気になったのが、この海牛が産出した地層がどの時代の海に堆積したものなのかということでした。私はすぐに地質に詳しい伏見中学校の前田先生に尋ねました。彼は即座に「小樽内川層だから、中新世の後期（およそ1000～700万年前）だ」と教えてくれたのです。私はますますびっくりしました。なぜなら、これまで日本からは鮮新世（500万年以降）という中新世の後の時代からしか大きな海牛が発見されていなかったからです。札幌カイギュウの謎が次々と浮かび上がってきました。（古沢）



クジラとカイギュウの比較(古沢 1991)

## ● 行事お知らせ 募集中！

### ①札幌産カイギュウ化石現地見学会

「さっぽろ産カイギュウ化石発掘現場をめぐる」

【内容】カイギュウ化石の産地を見学します。地層や岩石、化石を観察して札幌がどのようにして今の姿になったのかを解説します。化石採取も予定しています。

日時：9月10日(土) 9:00～15:00

会場：札幌市南区豊平川流域

\*札幌市博物館活動センターに集合。

対象：小学4年生～大人（小学生は保護者同伴）

定員：40名（多数時抽選）

費用：無料

講師：古沢 仁（札幌市博物館活動センター学芸員）

しめきり：8月31日(水) 必着

### ②体験学習会「漂着物から海の環境を読む」

石狩浜に漂着したのから見えてくる自然や人間の営みについて考えます。

日時：9月17日(土) 9:00～15:00

会場：石狩浜 \*札幌市博物館活動センターに集合。

対象：小学生～一般（小学生は保護者同伴）

定員：30名

費用：無料

講師：山崎 真実（札幌市博物館活動センター学芸員）

しめきり：9月7日(水) 必着

### ③体験学習会「落ち葉のしおりをつくろう！～秋の植物観察会」

【内容】いつも通り過ぎているだけではありませんか？

大通公園にはどんな木々が植えられているのか、落ち葉採集をしてその形や色を観察します。その後、室内で植物のたたき染めをしてしおりを作ります。

日時：10月15日(土) 10:00～12:00

会場：大通公園

対象：小学生～大人（小学生は保護者同伴）

定員：20名（多数時抽選）

費用：無料

講師：山崎 真実（札幌市博物館活動センター学芸員）

しめきり：10月5日(水) 必着

【申込方法】参加する行事名・住所・参加する方全員の氏名・年齢・電話番号・FAX番号を書いて、締め切りまでに博物館活動センターへハガキまたはファクス、Eメールmuseum@city.sapporo.jpにて申込。ホームページからも申し込みできます。

# 第16回 i ミュージアム企画展「サッポロの生きている湿原」展 7月22日(金)～10月15日(土)

展示会場：札幌市博物館活動センター 展示室

企画展関連講演会

会場：札幌市ボランティア研修センター第一研修室（中央区北1西9リンケージプラザ2階）

対象：一般【申込み不要、無料】 \*イス席に限りがあります。(120席)



10月1日(土) 13:30-15:00

## 「小さな湿原を探して～石狩湿地の歴史～」

お話し：辻井 達一氏（財団法人北海道環境財団理事長、農学博士）

今現在も開発が続いている反面、大都市札幌にも湿原が残っているという事はあまり知られていません。そこには絶滅危惧生物や湿原特有の動植物が生息しており、小さくても貴重な生態系を保っています。

講演では、北国ならではの自然環境ともいえる湿原について、その保全に関わる歴史的な背景と、現状についてお話しいただきます。



10月8日(土) 13:30-15:00

## 「湿原の保全～科学の目からのアプローチ～」

お話し：高田 雅之氏（北海道環境科学研究センター環境GIS科長）

湿原が自然界や人間にとって重要な意味をもつ環境であるということは、近年世界的にも広く認識されるようになってきました。

しかし、湿原王国といえる北海道の湿原の実態は、まだまだわかっていないことがたくさんあります。

講演では、石狩低地帯に残った小湿原の現状を、科学の目を通して紹介すると同時に、北海道の湿原とその保全について、外国の事例や、リモートセンシング・GIS（地理情報システム）といった研究手法も交えてお話いただきます。

# ジオ・フェスティバル～地学を楽しもう！～

化石、地質、天文、気象、環境、防災などに関するジオ15分講座や簡単な実験を体験できるジオ実験屋台などで、学校の授業では聞けない話や、実験が体験できます。自由研究でわからなかったこと、学校の授業では質問しにくかったことも、この日ばかりは先生にどンドン質問してみよう！ 地質（地層や地震など）、天文（星や太陽、月の動きなど）、古生物（化石、骨など）、気象（天気、雲など）等の先生が大集合します。

対象：小学生～一般 入場無料、申込不要 日時：8月28日(日) 9:30～15:30

会場：札幌市博物館活動センター実習室・講義室、野外

主催：ジオ・フェスティバル実行委員会・札幌市博物館活動センター



## 札幌市博物館活動センター展示室ご案内

【開館時間】10:00～17:00 【入館料】無料

【休館日】日・月曜日、祝日、年末年始（土曜日と祝日が重なる場合は開館。）

▶住所：札幌市中央区北1条西9丁目リンケージプラザ5階

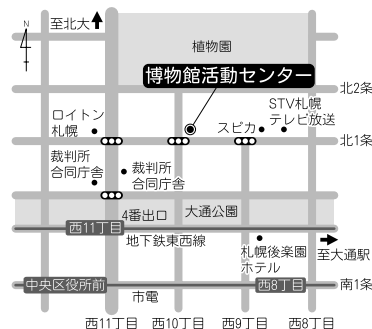
●STVホールスピカの西隣、旧市立病院の建物がリンケージプラザです。

●駐車場はありません。近くの有料駐車場におとめください。

〔地下鉄〕東西線西11丁目駅4番出口から徒歩5分。

〔市電〕西8丁目または中央区役所前電停から徒歩8分。

〔バス〕北1条西7丁目バス停から徒歩3分。



## 編集後記

来館者数 **36,851**人 (2005年6月末現在)

今年は調査中によくカラスにからまれました。自転車で藻岩山のふもとを回っていたときは、カラスがいるな…と見ていると、ふいに頭に風圧を感じました。冷や汗をかきながら、必死になって自転車をこいで逃げました。札幌でこんな恐怖体験をした人々の話をまとめたら、ミュースレター何号あっても足りませんね。(ま)



さっぽろ市  
03-K04-05-238  
17-2-29

発行・札幌市博物館活動センター 〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>



ミュースレターは、100%再生紙および大豆油インクを使用しています。